

巻頭言

人間ドック

石垣 武男

健康でいたいというのは皆、誰しも思うことである。たとえ持病があってもひどくならないようにしたいというのも普通の気持ちであろう。

数日前に人間ドックを受けた。PET 検診も含むものでここ数年受けている。朝から検査があり午後遅めには結果説明をしてもらえる。それ以前には違う施設で検診を受けていたが画像検査は胸部レントゲンと胃のバリウム検査だけでなんとなく心配であった。CTを含めた検診画像の読影を遠隔画像診断クリニックで手掛けるようになって自らもCTやPET検査を受けようと思ったのがきっかけである。ドックや検診なので持病はあってもそれ以外には何も自覚症状がない人が対象である。一般的には年に1回受ければ翌年までは安心である。しかし、実際にはそうでない場合もまれにある。1年前には何も無かったのに今年には信じられない様な大きながんが見つかることもある。それなら毎月検査していたら早く見つかったであろうが現実にはそうはいかないであろう。

地方自治体などが一般住民対象に乳がん検診、子宮がん検診や胃がん検診など行っているが検査を受ける割合は思いのほか低いのが現状である。役所は計上した予算に見合う受診者が来ないと困るのであろうが年齢層が低くなればそれだけ受診数は減るようである。健康でいたいという気持ちは潜在的には誰しもあるもののその気持ちが表面に出てくるにはかなり時間を要するのであろう。健康であるという自覚があるうちは万難を排して検診を受けようという気持ちにはなかなかかなれないのであろう。

ある日何か異常を自覚して医療機関を受診するというパターンは未来永劫続くのであろうがその割合を極力低下させるのは医療従事者にとっての責務であろう。それにはまず自らが若い時代から範を示すような教育も必要であろう。

(名古屋城北放射線科クリニック院長)